

*船岡養護学校同窓会では、同窓会の今後の活動に生かすことや、行政などに要望書を提出するという目的で「東日本大震災に関するアンケート」を同窓会員に送付し、それぞれ回答をしてもらいました。

*22年度までに住所が不明ではない方514人に送付（会員670人）しました。

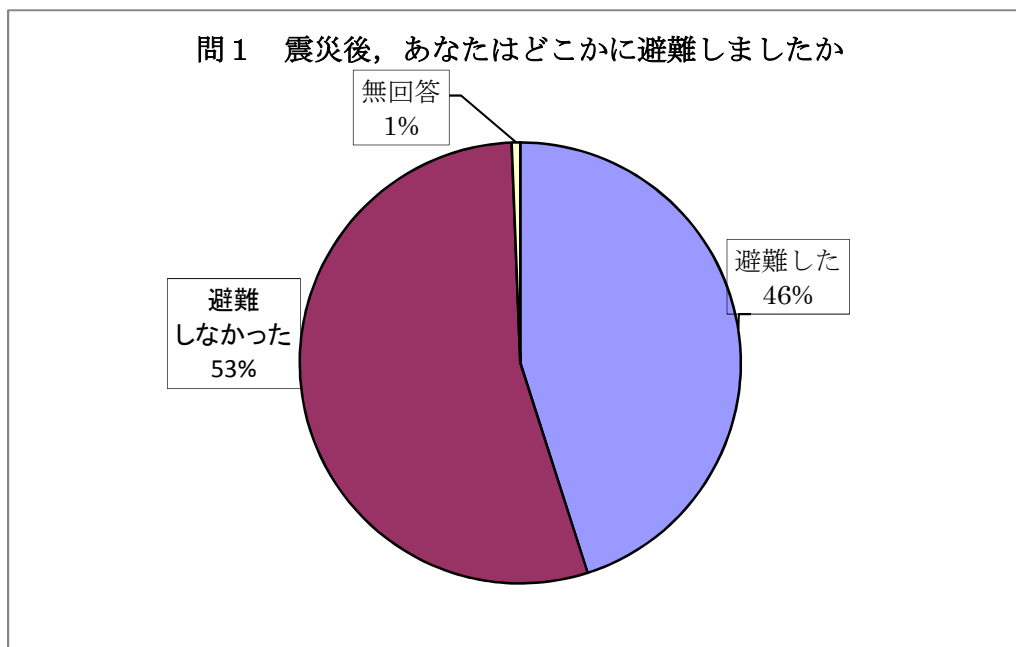
そのうち、回答いただいたのは162人でした。

*今回、日本郵便から返送されてきたものは、被災地3通（どちらに避難されているか不明のため）、その他17通（住所変更のため）でした。今後も同窓会総会等のお知らせを送付しますので、住所変更があった場合、船岡養護学校同窓会（宮城県立船岡支援学校内）の係りまでお知らせください。

○ アンケートの回答（平成23年8月末時点での回答です）

問1「震災後、あなたはどこかに避難しましたか」	した	しない	無回答	計
	61	100	1	162

*「避難」とは居住地以外の場所への移動と考え、「入所施設・職場や日中活動の場の中で、場所を変えての避難」の場合は、「避難しなかった」ととらえました。



問2（1）問1で「避難した」と答えた方に質問します。どこに避難しましたか。

*避難所（集会所・市民センター・学校等）へ。

*入所施設・通所施設から自宅へ。

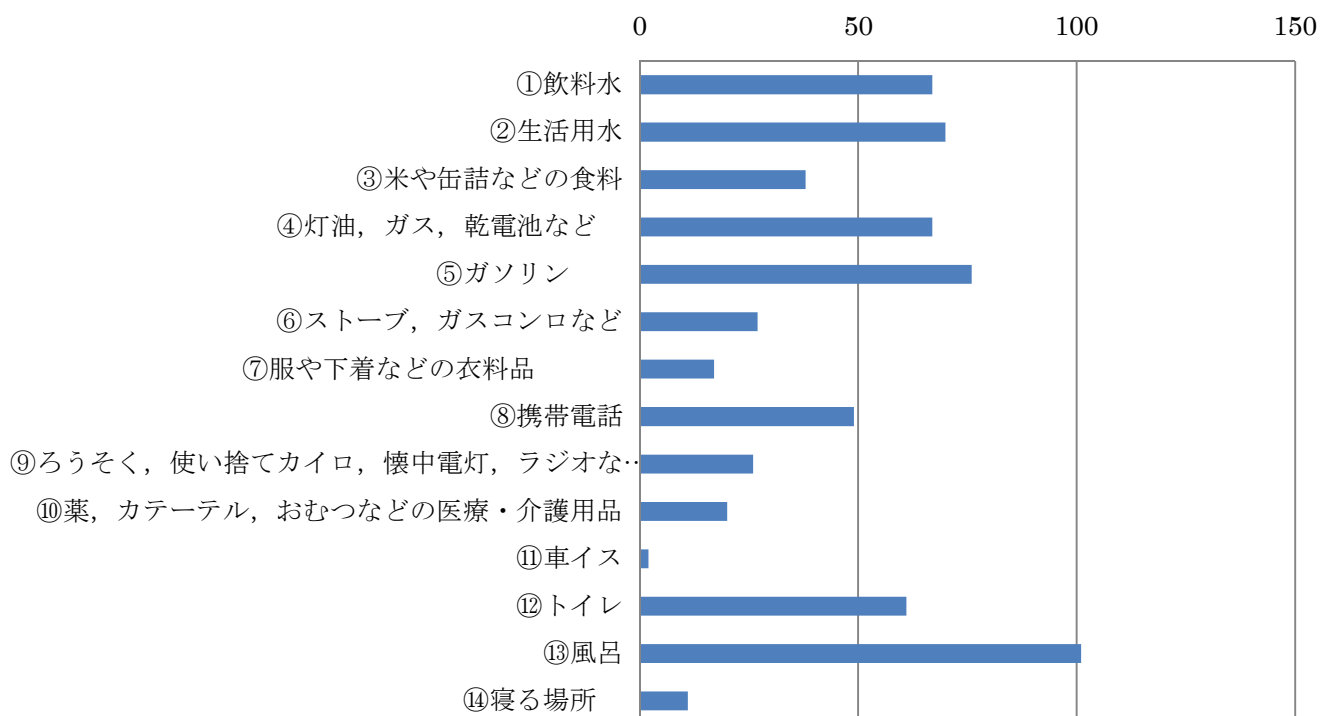
*親戚宅、実家へ。

*車の中

*病院へ

*通所施設へ など

問3 ライフラインが復旧するまで何にお困りでしたか(単位:人)



問4 問3でこまったことをどうやって解決しましたか。【複数回答】

水関係

- * 給水所・給水車・学校等の施設を利用
- * 家族・親戚・知人・近隣住民等の援助
- * 井戸水・川の水・雨水などを利用
- * 少し出た時の水道水をためた

トイレ関係

- * ポータブルトイレを利用
- * 避難所・公園などの施設利用
- * 風呂の残り湯等を利用

風呂関係

- * お湯やウェットタオルで拭いた
- * 知人宅・温泉・入浴施設等を利用
- * 入浴を我慢

ガソリン・灯油関係

- * 長時間並んで調達した

食料・衣料・生活用品等

- * 長時間スーパーやコンビニ等に並んで調達
- * 家族・親戚・知人等から分けてもらう
- * 寒さは厚着で我慢

医療関係

- * 胃ろうなどの器具はお湯をもらって熱湯消毒
- * 震災から1か月後の通院まで、薬やカテーテルは何とか間に合った
- * 飲み薬はもらったばかりだった。後日、病院側の連絡を待って通院

その他 (全般的に)

- * 家族・親戚・友人・知人・近隣住民に協力 (援助) してもらった
- * 節水・節約・工夫
- * 施設・施設職員・民生委員が支援・対応してくれた
- * 備蓄していたものを利用した
- * 回復・復旧するまでとにかく我慢した

問5 ライフライン以外のことで困ったことはありませんでしたか？

特になし（12）

- *避難所ではなく家にいたのであまりなかった。
- *近所の方々に食べ物をいただいたりして助けてもらった。

医療や医薬品関係（10）

- *薬を手に入れることに苦労した。 *かかりつけの病院がなくなり大変だった。
- *通院するにあたり、家族が仕事を休みながら調整して生活している。 など

ヘルパー・ボランティア関係（8）

- *ヘルパーさんがある期間ストップしてしまい大変困った。 *ボランティアが少なかった。
- *水の配給や買い出しに行く際などに見守りしてくれるボランティアがほしかった（2）
- *介助・介護の手助けがほしかった。作業所は自宅待機となり、いつ再開するか連絡がなかった。 など

避難所生活（3）

- *避難所ではプライバシーがなく、排泄（オムツ交換など）の際、本人にかわいそうな思いをさせた。
- *障害者（車いすの人）にとってトイレに困った。
- *車いすを使用している自分にとっては避難所での生活も難しい。

施設利用関係（5）

- *施設も長期に休みに入り、ただ家にいるだけで退屈だった。
- *通所施設が被災し、通所できなくて居場所がなかった。
- *衣類を施設に置いたままで、着替えがなく困った。
- *生活介護を利用していたのが、自宅待機となった。
- *施設が津波被害で利用できなくなり、ずっと祖父母が面倒をみることになった。 など

その他（16）

- *電車が止まっていたので、職場まで通えなかった。 *ガソリンや灯油の調達で困った。
- *タクシー業者と連絡取れなかった。
- *携帯電話が使えず、友人に連絡できなかった。 *津波警報が出て避難できなかった。
- *家にいるだけで、外に連れて行けなかったので、運動不足になった。
- *情報を入手できず、不安な日々を過ごしていた。
- *避難所は分かっているにもかかわらず自力で行くことが出来ず、怖い思いをしながらも自宅から出られずずっと自宅で過ごした。
- *安全な場所には居られたが、どこにも出かけられなかった。
- *避難時はほとんど何も持たず、家は津波により流失したため、全てのことで困った。 など

問6 今回の震災で、いやな思いなどをしたことはありませんか？

避難所などのトイレ関係（13）

- *車いす用トイレがなかった（2） *洋式トイレがなかった。
- *避難所で汚れたトイレを使用しなければならないこともあった。
- *津波警報で一時的に避難したが、避難所の車いすトイレが使用できなかった。
- *オムツ換えの場所〔個室〕がなかった。
- *避難所にバリアフリーのトイレをつくってほしい。
- *学校に避難。車いす用トイレのある避難所を希望したが、空きがなくて入れなかった。仕方なく、車いす用トイレのあるスーパーまで毎日歩いて行っていた。
- *避難所にいると、子供もいるのでいろいろ大変で、親戚からすぐにアパートを探してもらった。
- *震災でトイレの水が出なくて手も洗えず、母と二人1枚のウェットティッシュを半分にして使っていた。
- *車いす用トイレがないため、避難所へ行っても大変だったと思う。 オムツ使用なのでなおさら。 など

入浴関係（5）

- *お風呂に入れなかった。（3）
- *何日もお風呂に入れず、そのうえ生理にもなってしまう、下着もなかった為、オムツをはいていた。
- *何度も避難所に行くことを考えたが、集団生活ができる体でなく、生理も重なり皮膚トラブルになった。 など

その他（23）

- *電気がなく、夜暗くて怖かった。 *電気がこなかった。
- *買い物に行ってうーんと並んだ。 *家族の安否確認ができなかった。
- *行政の対応には、いろいろと不満が残った。
- *民生委員は一生懸命対応してくれた。
- *私たちのように障害をもっている弱者に、もっと配慮がほしかった。
- *交通手段のための車が流れてしまい、移動手段がスムーズにいかなくなった。
- *日中車いすに乗る時間が短くなった。自分で何もできなくなった。
- *地震がたびたび起こり嫌だった。 *就寝中に余震があつて眠れなかった。
- *気落ちが落ち着かず、体調不良を起こした。
- *地震の時、危なく車イスから落ちそうになって怖かった。
- *いろいろとあつた。 *勤め先から落ち着くまで来なくてよいと言われた。
- *どこでも親切にしてください、不自由なこともなかった。
- *避難所の生活を思い浮かべると、不自由ながらも自宅にいられる幸せを感じた。 など

問7「今回の震災で、仙台市をはじめいろいろな所で「福祉避難所」ができました。

	知っていた	知らなかった	無回答	計
(1) あなたは「福祉避難所」を知っていましたか。	25	127	10	162
(2) あなたは「福祉避難所」に行きましたか。	行った	行かなかった	無回答	計
	2	142	18	162

(3) 行かなかった理由や行ってみての感想・要望などがあればお書きください。

①「知っていて、行った」方の感想等

* 助かりました。

②「知っていたが、行かなかった」方の感想等

* 自宅・入所施設が無事だったので、行かなかった。

* 一般の避難所に避難した。

* 親戚宅等に避難した。

* 病院等に対応していただいた。

* 近くになかった。

③「知らなかったなので、行かなかった」方の感想等

* 入所施設・自宅等にいたため、困らなかった。

* 福祉避難所があることを知らなかった（情報がなかった）。

* わからなかったので行かなかった。

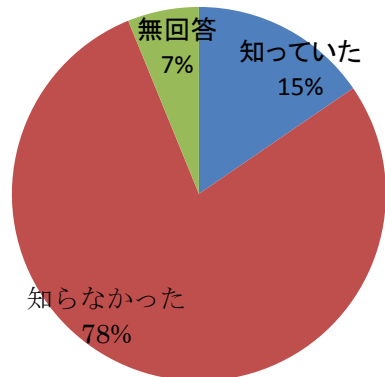
* 自宅でも充分生活できたが、今後のために福祉避難所等の情報など把握しておきたい。

* 今後一人になったときに利用したいが、場所がわかりません。

* 生活面で特に困ったことはなかった。いつ震災が来ても1週間ぐらい生活できるように心がけ、食料やその他のものを確保していた。

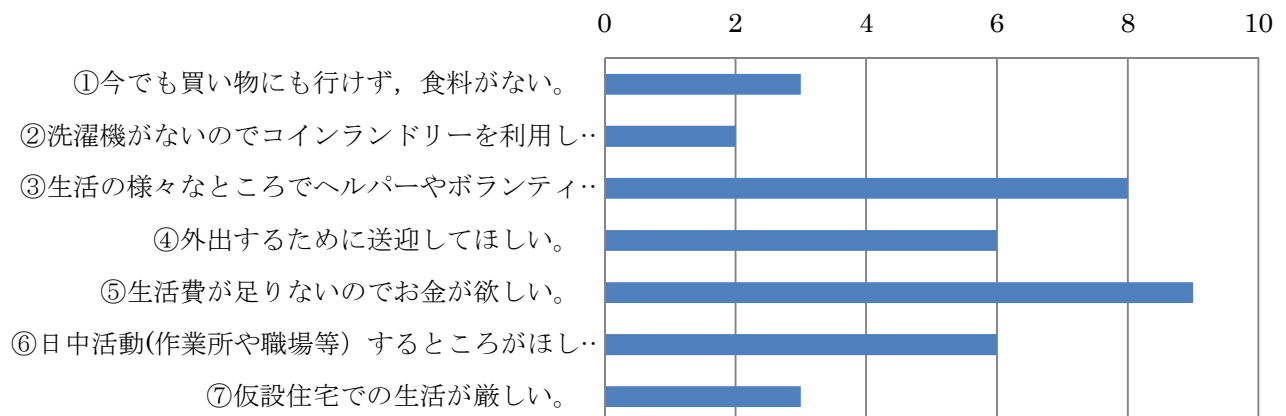
* 一般の避難所は、障害のある方もそうでない方もいっしょにいた。

問7 福祉避難所を知っていましたか



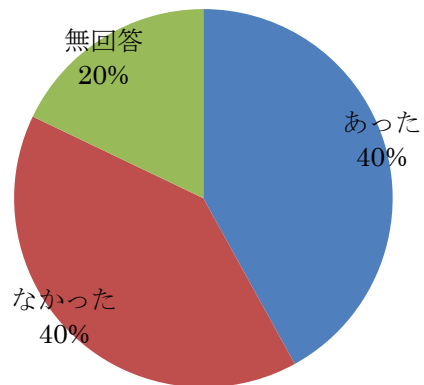
問8 被災の後や現在の生活の中で困っていることや要望などはありませんか？【複数回答】	
①今でも買い物にも行けず、食料がない。	3
②洗濯機がないのでコインランドリーを利用しているが、お金が続かない。	2
③生活の様々なところでヘルパーやボランティアがほしい。	8
④外出するために送迎してほしい。	6
⑤生活費が足りないのでお金が欲しい。	9
⑥日中活動(作業所や職場等) するところがほしい。	6
⑦仮設住宅での生活が厳しい。	3
⑧その他 *家が半壊で、建て替えするので金銭的にも仮住まいにも困っている。 *日常生活に支障はないが、家が半壊でまだ復旧せず落ち着かない。 *風呂が狭くて入りにくい。 *失業中。仕事がなくなった。 *作業所が被災し、今後の不安。 *余震が続く中で子供を1人にしておけず、長時間の時は一緒に行動している。 *先のことはわからないが、年を取って独り暮らしになったらと思うと不安。 *家庭の急な用事の時に対応してもらえる制度がほしい。 *体育館やプール等の施設が使えず、体を動かしたりスポーツをする機会がほとんどない。 *特になし。 など	

問8 被災後や現在の生活の中で困っていることや要望などは？
(単位:人)



問9 同窓会では、今後の災害などがあつた時に備え、安否（無事かどうか）の確認の範囲や方法などを検討したいと思っています。	はい	いいえ	無回答	計
(1) 電話での安否確認を希望しますか？	62	80	20	162
(2) (1)で「はい」と答えた方にお聞きします。電話がつかない時、可能であれば自宅へ訪問しての安否確認を考えていますが、それを希望しますか？	40	37	85	162
問9 (3) 今回の震災の時、行政や他の団体などからの安否確認はありましたか？	68	65	29	162

問9 行政等からの安否確認はありましたか？



問10 その他、お気づきのことがありましたらご自由にお書きください。特に、同窓生の安否に関することや避難先についての情報がありましたら、お書きください。他にも、避難所にどのようにして行ったか、震災の被害情報や生活情報はどのようにして集めたかなどについてもお書きください。

- *被害情報や生活情報、安否は、テレビやラジオ・新聞・電話などで知った。(8)
- *ラジオを聴いたり、近所の方や会社に行っている父から話を聞いたりした。
- *コンビニやイオン、ヨークタウンの情報を職員から聞いていた。
- * (入所施設の)職員からおしえてもらった。(2)
- *被害情報・新聞、市の文書を区長が届けてくれた。
- *平日の日中に発生しましたので施設に入所・通所している人にとっては介添えをされた方もいらしたと思いますが、在宅でひとりだったら、夜間だったらと考えますと何とか手はないかと考えてしまいます。移動手段に手間がかかりますので誰かが傍にいる必要が生じます。それをどうすれば・・・と行ってしまいました。常日頃のご近所づき合いでしょうか。
- *自宅に大きな被害はなかったが、本人に理解する能力がないため、こだわりの生活リズムが崩れ、ストレスからの自家中毒で2日間点滴に通った。ガソリンがなく仙台のかかりつけの病院に行くこともできず、地元の委員に受け入れてもらい助かった。郡部で専門医もなく、障害の重いものが今回のような状況下でスムーズに受け入れてくれる医療システムの整備を望む。
- *会社が機能停止したため、見知らぬ人に近くの中学校まで避難させていただき(車イス使用なので坂をおしてもらった)3日後母方のいとこと連絡がとれ秋田から迎えに来て、3ヶ月間避難していた。親は避難所において、バリアフリーでないため行くことができなかった。仮設が7月に当たり、宮城に戻った。
- *電話もメールもPCも全部だめ。ガソリンもなく各避難所に歩いて行って安否確認をした。情報は何一つ入らず。家に米や野菜、沢に水、店の肉などがあり人に分けてやった。七輪で煮炊きした。そういうことが人づてに伝わり避難している人が家に集まってきた。
- *震災時…平成22年度、仙台市による耐震診断を希望し、診断にそって耐震工事を終えていたので(2ヶ月かけて)震災被害はありませんでした。町内の防災訓練に参加し避難所への見学、通り方などに参加する中で、自宅での避難生活をするために工事(耐震診断による工事を終えた)でした。大変でしたが、本当によかった。
- *震災の情報は、ラジオ(手動手回し)と新聞がすべてでした。ライフラインの中で一番必要なのは電気だと思う。15日夕方から電気が復旧するとインターネットで生活情報収集。食料、水が備蓄してあったので、カセットコンロで調理、近所の人にも数日間届けてあげた。
- *施設に入所しているのでスタッフの方と一緒に避難しいろいろしてもらった。避難先ではいろいろ我慢することばかりで大変だった。
- *前の住居が壊れたため、次の住居を探すのに困りました。
- *施設から作業着のまま、施設の車で職員と一緒に避難して、親が迎えに来るのを待った。その後、親の車の中で一晩過ごし、被害情報は、車のラジオやワンセグから得ることができた。自宅へ戻ってからはラジオから情報を得、町の町内放送から給水や電気・ガスなどの復旧情報を集めていた。
- *生活情報(障害者の支援センターなどの情報)は、友人・知人からのメールにて収集できました。とても助かりました。重度の障害者は、電源がないと命にかかわってくるので、できれば病院を開放してもらえると助かるなあと思いました。避難所は空気もあまり良くなく、様々なストレスで体調を崩しやすい!実際崩して救急車で入院となりました。
- *自分に必要な薬や医薬品は何かあったときのために、別に用意して、すぐ持ち出せるところに置いておくと良いと思います。今回、わたしもそうしていたおかげで助かりました。
- *震災後、2週間くらいに、県肢体不自由児協会と連絡が取れて、そこから、各種支援団体からおむつや重度の方が必要なものの支援がされることを知り、近隣の重度のお子さんを持つ方に連絡しました。
- *車椅子用の仮設トイレ、仮設住宅が必要だと思う。一般の避難所でも十分に生活ができるようにしてほしい。そのためにはまわりの協力も大切になってくるが、本人の工夫も必要なのだと思う。これからの障害者当事者の課題だと思う。
- *家が流出してしまったので、同級生の名簿や写真が欲しいです。

- *震災時も施設の先生方が対応してくれたので安心していました。その後も安否確認や施設がはじまるまで生活の様子を見に来てくれました。
- *震災後の同級生の安否などは連絡をしてないので今も知りません。3. 11は母と買い物の帰り仙台駅地下で地震になり家には帰れず市内の避難所小学校へ行きましたが、教室に50人ぐらい避難の人がいてびっくりしました。
- *いろいろなところで福祉避難所ができたアンケートに書いてあったが、全然知らないので教えてほしい。できれば地図もあると助かる。
- *クラスメイトはみんな元気。今回のことで引っ越さざるを得なくなったが。直後はドアが開かなくなり、団地の方6人ぐらいの男性に部屋から出していただき感謝している。(普段は両松葉づえ) 自立歩行はできないが、避難所には歩いて行けた。
- *震災の被害情報や生活情報は施設支援員に毎日話してもらった。
- *卒業したばかりで祖父母と在宅時の被災で運が良かった。4月より施設利用、5月よりケアホームに入所、充実した生活を送れている。
- *安否確認が困難。電話・携帯・警察・手紙などいろいろな方法をとったが確認が取れなかった。肢体不自由児協会の人へのメールで運よく所在が分かったが、道路事情やガソリン不足ですぐに面会には行けなかった。
- *避難所へは車いすに乗って職場の人と一緒に歩いて。情報は新聞やラジオから集めた。
- *食料・衣類・ガソリンにも困っている状態。救援物資が自宅にいても届くとよいと思った。水・ガソリン・食料で何時間も並んで待つことが困難だった。
- *ライフラインがないときは近所の人と話をし情報収集し、復旧後はテレビや電話で情報が入った。同窓生の安否は、仲の良い友達は連絡し合ったりしばらくして会ったりした。避難は近所にお年寄りもいるのでいかなかった。車いすなのでトイレや寝る場所もないので自宅にいた方が安心できるし、人数もいたので。
など